横浜市戸塚区　戸塚歴史の会　機関紙「とみづか」

ゼオンOB　佐藤正喜投稿

◆飯島村の領主黒田氏と光長寺、お六の方

とつか道から飯島団地に入ると、飯島小学校に近い道端に「三山供養塔」があり、坂道を少し登ると、飯島の領主が中興したという浄土宗清水山養儼院光長寺（栄区飯島町779）がある。寺紋は葵の紋であり、調べてみると徳川家康最後の側室といわれる「お六の方」にゆかりがある寺であった。

１．飯島村の領主

飯島村は初め天領であったが、文禄4年(1595)、村高649石余を三給に分割し、黒田兵庫(607石余)、戸田五助(25石余)、富士吉十郎(15石余)がそれぞれ知行することになった。その後、元和元年(1615)、旗本黒田直綱の一円知行地となった。直綱は大坂夏の陣の戦功により従五位下信濃守に任じられ、伊豆、相模（岡津・飯島）、三河合わせて4千石を知行した（「泉区今昔、領主黒田直綱と岡津村」）が、寛永元年(1624)25才で没した。その後の飯島は、直相が相続し、直常、直方、直巷、直賢、直儀と、代々黒田家が支配した。

その後、相模湾の海防警備に就いた藩が領有するようになり、文化8年(1811)会津藩領(松平容衆）、文政4年(1821)川越藩領(松平斎典)、嘉永7年(1854)熊本藩領(細川斉護)、文久3年(1863)佐倉藩領(堀田正倫)と代わり、慶応3年(1867)天領(代官江川太郎左衛門英龍)となって幕末を迎えた。

江戸初期の寛永2年(1625)、飯島の領主であった黒田直相が、現在の地に養厳院（お六の方）の菩提のため光長寺を中興したとされている。

２．清水山養儼院　光長寺

寺伝では開創は天正年間（1573～1592）、開山は円蓮社音誉智達(慶長13年寂)、開基は不明とされる。当初は泉水山香梅院と称していた。飯島の領主であった黒田信濃守直相の中興開基であるとされる。黒田直相は、寛永2年(1625)日光東照宮に参拝の折に急死した姉の養厳院（お六の方）を弔うため碑を安置し、隣接する山林五畝余りを寄進し

たと云われる。この時に、山院号を清水山養儼院に改めたという。

大正12年（1923）の関東大震災で本堂が倒壊し、本尊の阿弥陀仏も損傷して、日光市今市の如来寺から新たな御本尊を迎えた。その後、本堂修復が成って昭和24年に遷座し、招来された阿弥陀仏は本堂右脇間に安置されている。

その後、本堂修復、庫裏、客殿、寺務所の新築を経て現在に至っている。

本堂前の枝垂れ桜は、戸塚近傍では西林寺(泉区岡津町、樹齢160年)に次ぐ大木といわれ見事な枝振りである。

３．黒田一族のこと

黒田氏は、寛政重修諸家譜、旧今川家臣録等によると三河の出で、旧今川家臣、後に家康に仕えた一族で、黒田家譜によると「広綱―久綱―光綱（五左衛門）―直綱（信濃守）＝直相（信濃守）＝直邦＝直純・・・」と続き、お六の方（俗名、呂久）は光綱の末娘で直綱の姉であるという。

生年は、呂久1597年、直綱1600年、直相は1616年と伝わる。

直相は、和歌山藩士近藤用勝の子・用綱といい、寛永2年(1624)９才で直綱に養子に入り黒田家を相続した。従って、黒田直相10才のときに、養父の姉・養厳院（お六の方）の弔いのため光長寺を中興開基したことになる。

後、黒田直相は寛文元年(1661)、館林宰相綱吉の家老となり３千石を賜っている。なお、直相の養嗣子・直邦は延宝8年(1680)幕臣となり、５代将軍綱吉の元で1万石に加増され初代下館藩主を経て、沼田藩主となった。

黒田家は、直邦の養嗣子・直純が沼田藩主を経て初代久留里藩主（譜代3万石）となり、9代直養の明治維新まで続いた。なお、**久留里藩黒田家初代・直邦から数えて14代目の当主は、筆者の会社時代の同僚で健在**である。

４．お六の方について

呂久は、姉が奥向きに仕えていた縁で、慶長14年（1609）13才で於梶の方（お勝の方・英勝院）の部屋子として召しだされた。

彼女は美人で歌道に通じ諸事器用にふるまい、家康公に大そう気に入られ、於梶の方の手元から引き抜き、側室・お六の方として愛された。

家康が晩年愛したものは「佐渡殿(本多正信)、雁殿(鷹狩り)、お六殿」と称されたというから、相当の寵愛ぶりであったと思われる。お六の方は慶長19年（1614）の大坂の陣にも家康公に供奉し陣入りしたという逸話があり、父光綱に３千両の証状を給わったという。元和2年（1616）家康公が死んだ時に一番若かった側室で、20歳であったから実に55歳年下の側室であった。於梶の方はお六の方より19才も年長なので、於梶の方が家康に積極的に若いお六の方を奨めたと流布されている。

お六の方は、家康が死去すると出家して養儼院と号し、田安比丘尼屋敷に住んだ。まだあまりに若かったため、2代将軍秀忠の意向で、のち復飾して榊原康政の養女となり、喜連川左馬頭頼氏の嫡男・河内守義親に嫁いだ。

しかし寛永2年（1625）3月28日、家康公の年忌法事で日光東照宮を参詣した際に社前で急死してしまった。雷の被災によるとされる。享年29。

遺骸は日光山内養源院に葬られた。法名は養儼院鑑譽心光大姉。

参考文献；①『戸塚区郷土誌』編纂委員会編、②『とよだ』大橋俊雄著

③『久留里藩主黒田家の系譜』佐々木哲氏ブログ